

2026年3月期（FY2025）  
決算説明資料

2026年5月14日



本資料に記載されている計画については現在当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

## 本日のキーメッセージ

**1** FY2025決算は、3Q時点での見通し数値を上回る好調な決算

**2** FY2026見通しは、原料条件中心に環境変化激しい中、EBITDAはFY2025並みの80億円台キープ

**3** 事業再生計画の全体進捗は、概ね順調に推進

- 再生計画1年目で当期純利益も黒字化達成/EBITDAも約80億円水準まで回復
- 不採算事業の撤退/再編の実行、施策効果積み上げによる収益貢献の実現
- 今後の更なる成長に向けた戦略投資強化も推進中

**4** 事業再生を更に推進する体制として社長交代、社名変更、組織改正を実施

**5** 東証プライム上場の適合基準もクリア、株価も堅調に推移

1. 2026年3月期 期末決算	P.3
2. 2027年3月期 通期見通し	P.10
3. 事業再生計画について	P.15
4. その他	P.23
Appendix	

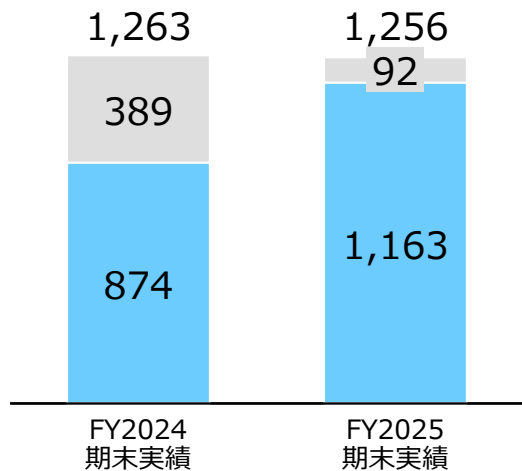
# 2026年3月期（FY2025） 期末決算の概要（累計前年同期比）

売上高、EBITDAについてはプラス影響とマイナス影響あるも、全体としてはほぼ横ばいとなりました。当期純利益は前年度に計上した亜鉛製錬撤退に伴う減損損失の反動等で前年同期比増益となりました

(億円)

## 売上高

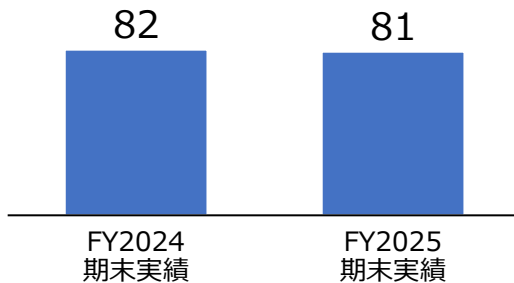
- 撤退・再編事業
- 基盤・成長事業



(前年同期比)

- 亜鉛製錬事業、資源事業からの再編・撤退による売上減少
- 銀相場の上昇に伴う売上高の増加

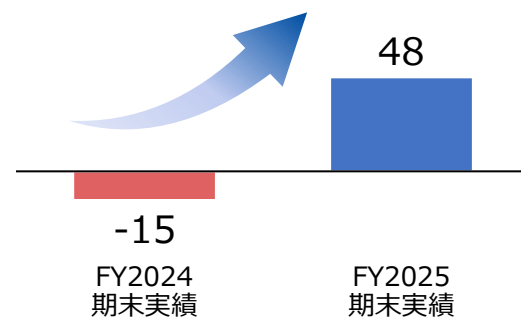
## EBITDA



(前年同期比)

- 上期の操業トラブル/火災事故などの影響によりマイナス
- 亜鉛製錬再編に伴う保有資産売却の施策効果でプラス

## 当期純利益



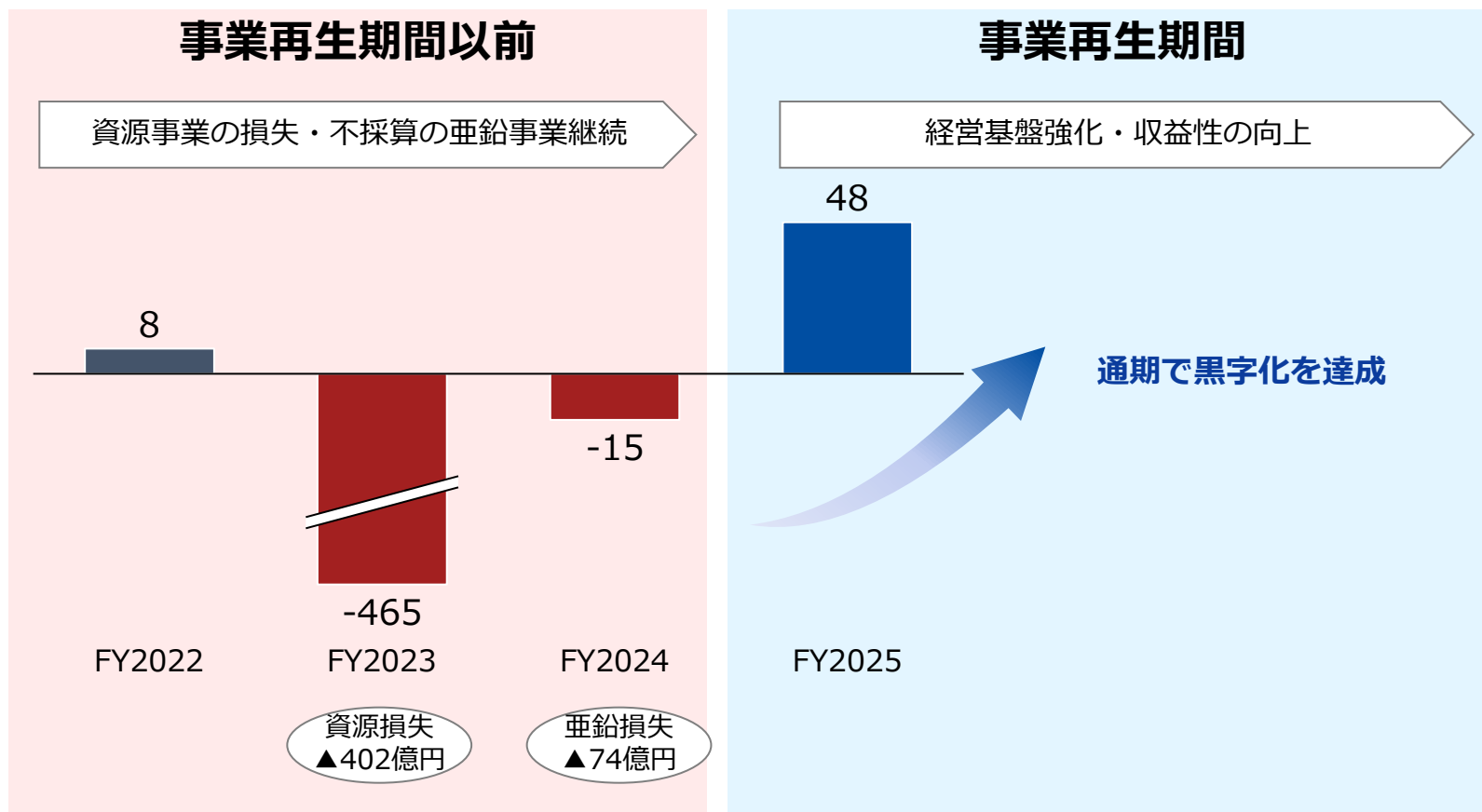
(前年同期比)

- 前年度計上の亜鉛製錬事業の撤退に伴う減損損失の反動

# 事業再生期間1年目に“当期純利益”の黒字転換を達成

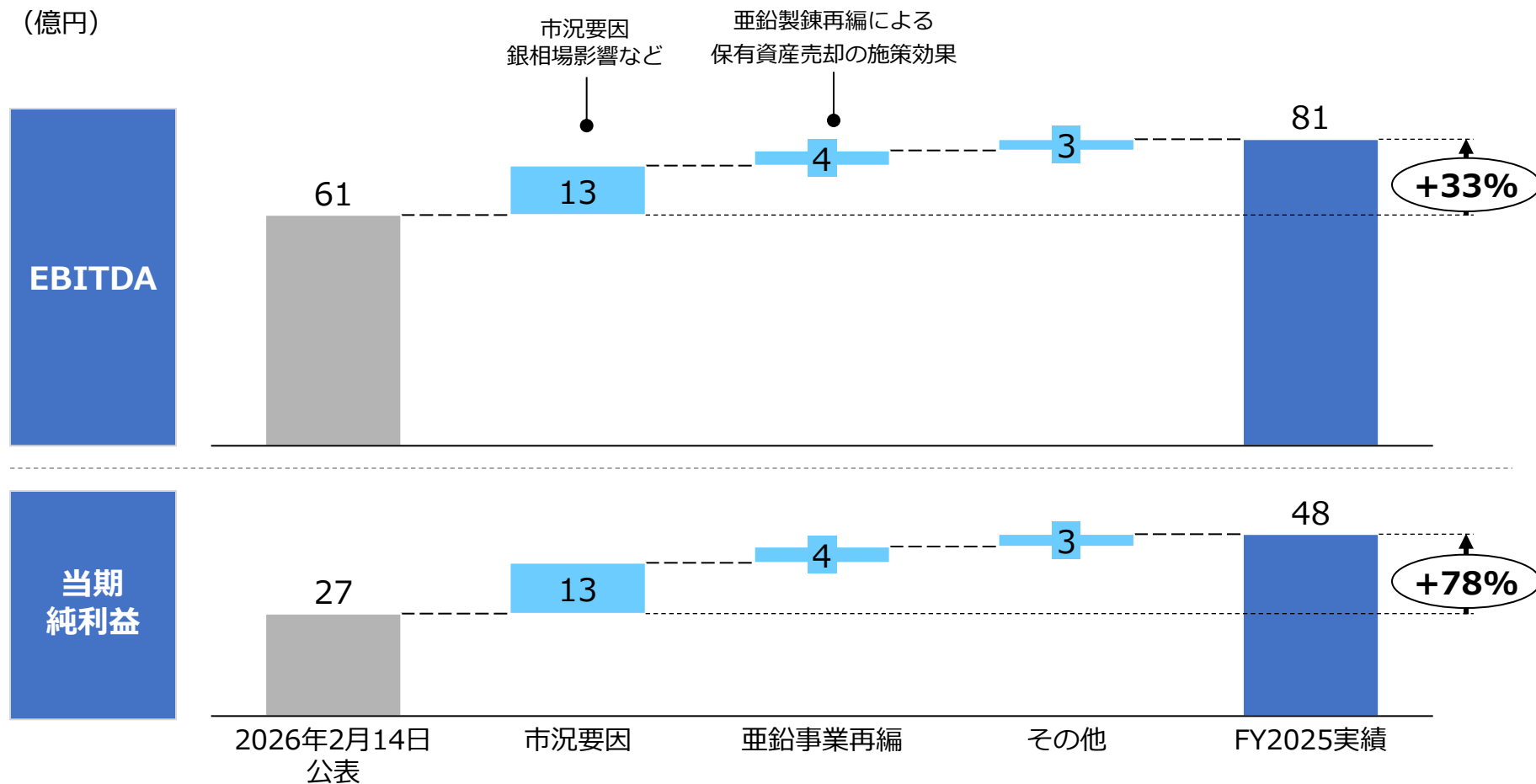
資源事業撤退および亜鉛事業の再編も行い、事業再生計画1年目で通期黒字化を達成しました

(億円)



## 2026年3月期（FY2025） 期末決算の概要（上方修正）

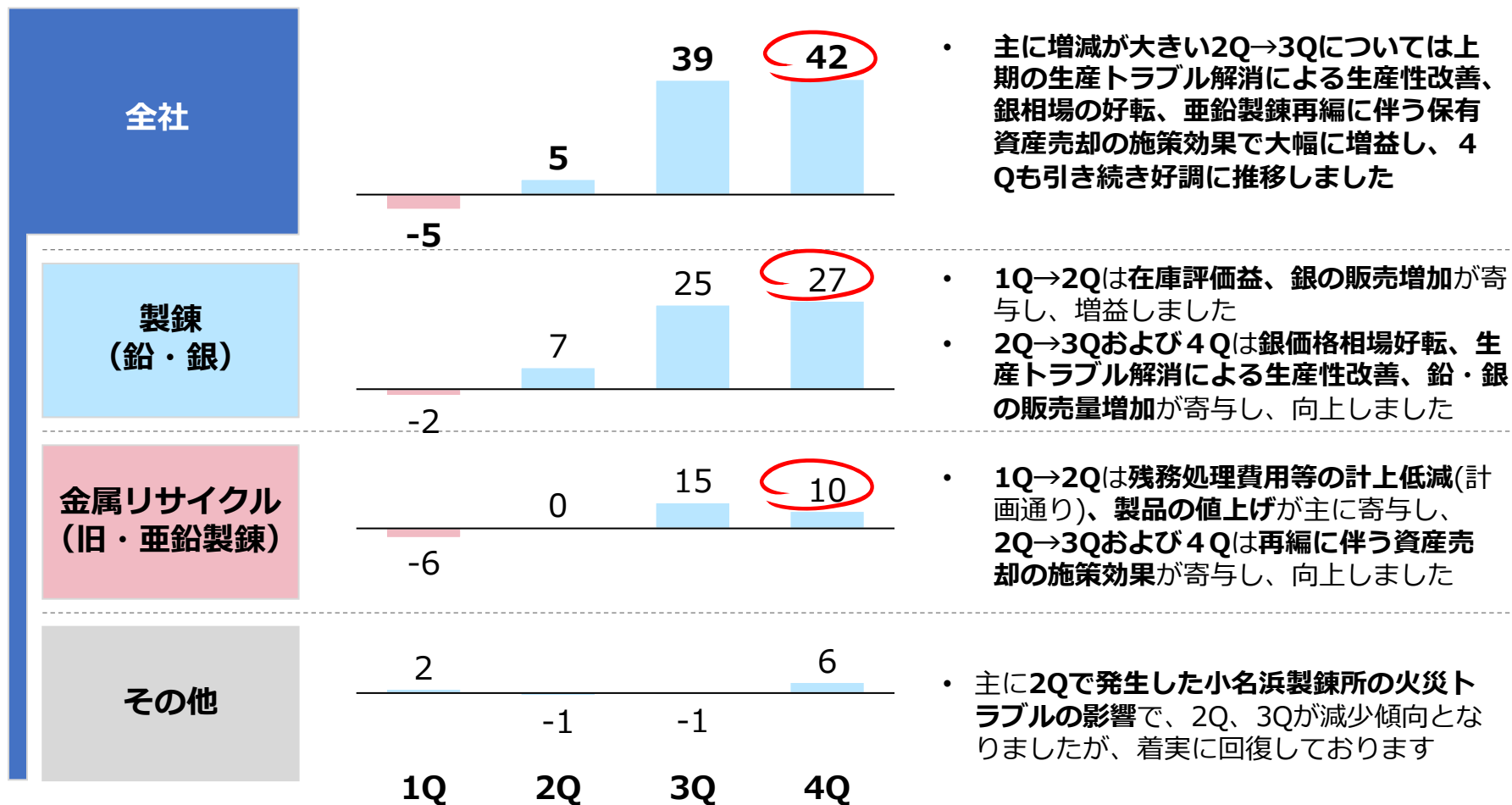
銀相場の影響などを中心に、2026年3月期通期実績はEBITDA81億円（2月公表比+33%）、当期純利益48億円（2月公表比+78%）に上方修正いたしました



## 2026年3月期（FY2025）各四半期の利益積み上げ（EBITDA）

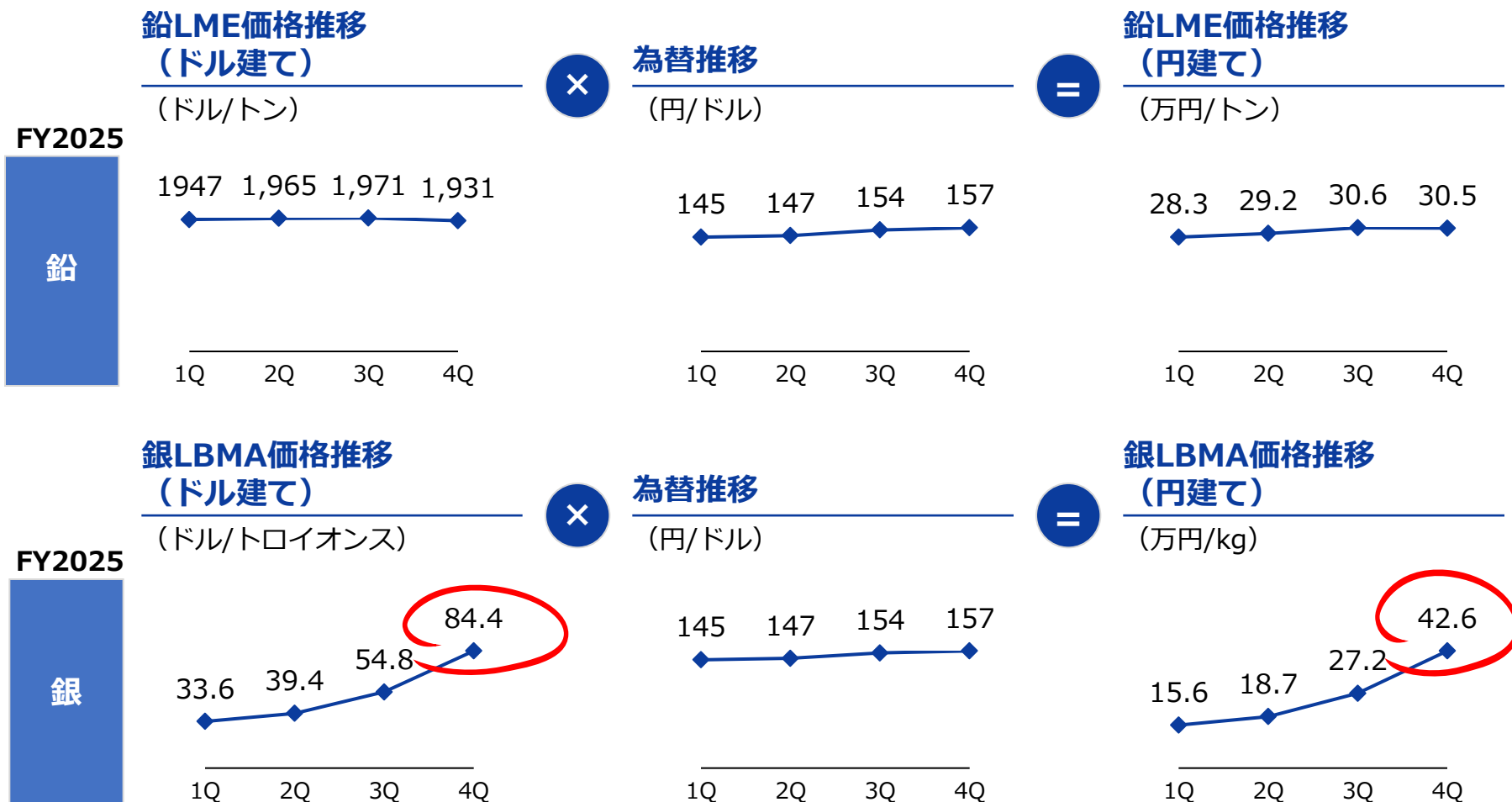
3Qに引き続き、相場影響の好転及び亜鉛製錬再編に伴う保有資産売却の施策効果により大幅増益を達成しております

(億円)



# (参考) FY2025の資源価格推移 (ドル建て、円建て)

鉛価格はドル建てで下落し、若干の円安傾向の中ほぼ横ばい。銀価格はドル建てで上昇し、同じく若干の円安傾向もあり円建てで上昇しています

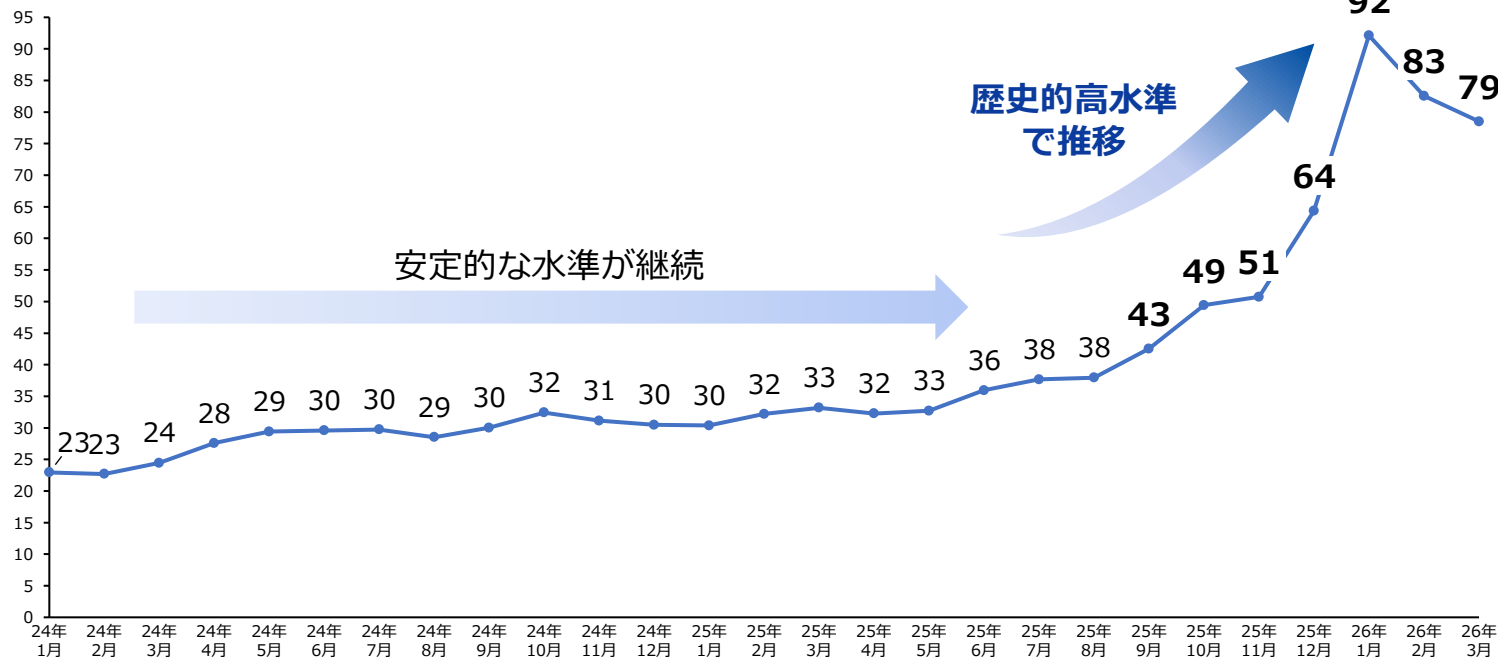


## (参考) 銀価格の推移

2025年9月より40ドルを超えて、1月の平均は92ドルとなり歴史的な高水準、その後は若干落ち着くも、高水準が継続しております

### 銀価格 (LBMA) の推移 (1か月平均値)

ドル/トロイオンス



相場は若干落ち着くも  
高水準は継続

歴史的な高水準  
で推移

安定的な水準が継続

1. 2026年3月期 期末決算	P.3
2. 2027年3月期 通期見通し	P.10
3. 事業再生計画について	P.15
4. その他	P.23
Appendix	

## 足元の外部環境/内部環境

鉛・銀事業を中心とした調達環境が悪化。貴金属相場は高い水準で推移の想定です

変動要因	足元の状況	FY26影響 (対前期)
外部  鉛銀	貴金属相場	● 金銀は歴史的な高騰によりフリーメタル収益貢献期待 <span style="color: blue;">+</span>
	TC/RC	● 歴史的な低水準が継続。中国の精鉱需要が旺盛な影響 <span style="color: red;">-</span>
	廃バッテリー	● 廃バッテリーの回収コストが高騰している状況 <span style="color: red;">-</span>
	レアメタル相場	● 昨年度アンチモン相場高騰も、足元相場落ちつく（ビスマスは価格高騰も収益影響は相対的に小さい） <span style="color: red;">-</span>
内部	● 昨年度の操業トラブルの解消（契島/小名浜）	正常化

- 中東情勢を受けたリスクについては、一部エネルギーコストの上昇による影響は見込むも限定的であり、操業が止まるような大規模なリスクは現状想定しておりません。今後の先行きの不確実性が高まる中、動向を注視して対応してまいります

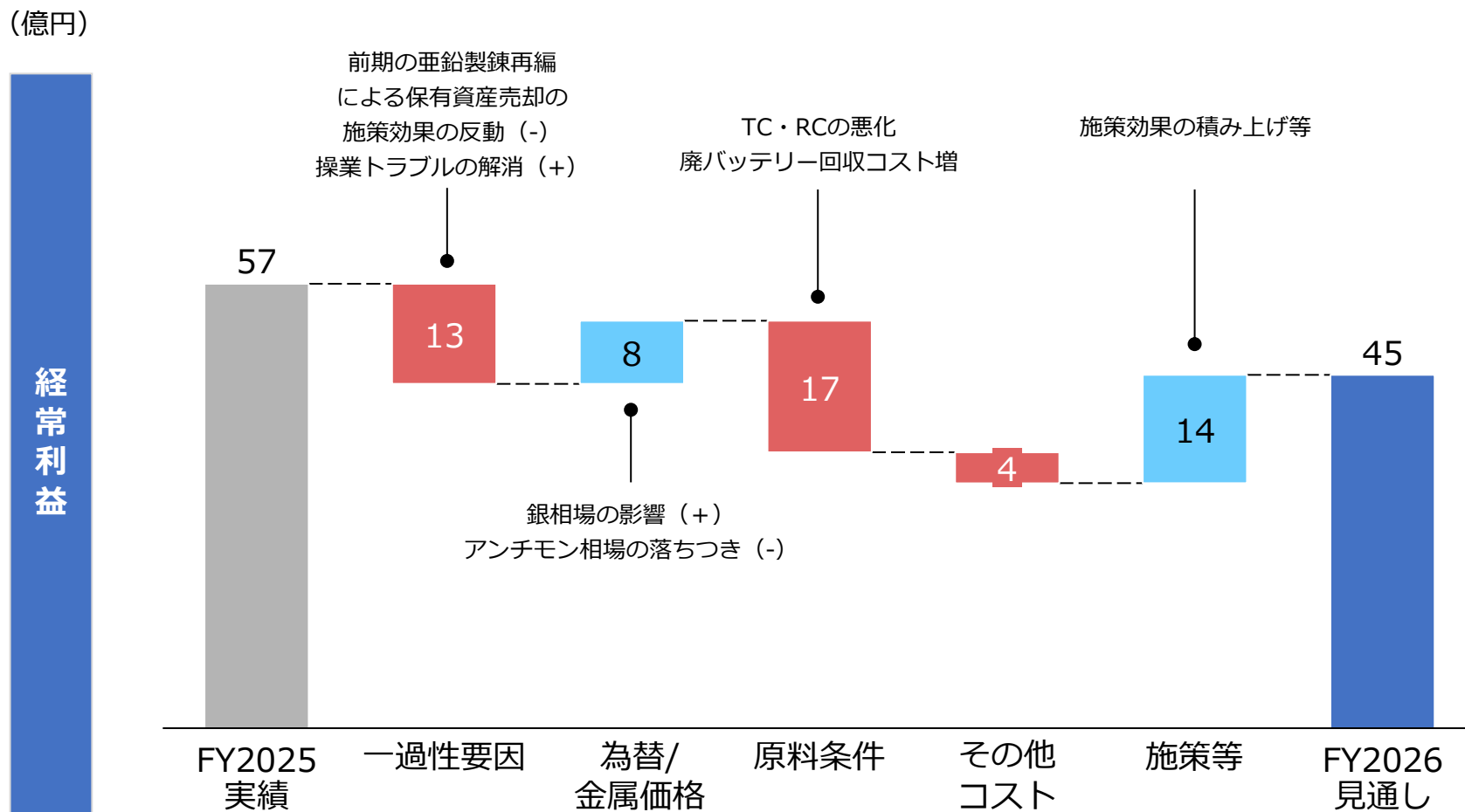
## 2027年3月期（FY2026）決算の見通し

FY2026見通しにおけるEBITDAは環境変化の中、好調だったFY2025並みの80億円台をキープしております

(億円)	FY2025 実績	FY2026 見通し	前年差	前年比
売上高	1,256	1,785	+530	+42.2%
EBITDA	81	80	▲1	▲1.6%
経常利益	57	45	▲12	▲20.7%
当期純利益	48	35	▲13	▲27.9%

# 2027年3月期（FY2026）経常利益（前期差）

施策効果の積み上げも来年強化する一方で、外部環境変化が激しい状況です



## 参考：主要な資源価格及び為替の想定と感応度

市況・為替について、直近の推移を踏まえて2027年3月期（FY2026）見通しの前提を設定しています。それらの収益に与える感応度は以下の通りです

	<u>FY2025 実績</u>	<u>FY2026 見通し</u>	<u>感応度</u>
鉛相場	1,953 ドル/トン	<u>1,900</u> ドル/トン	100ドル/トン上昇の場合 経常利益 2.5億円/年増加
銀相場	53 ドル/トロイオンス	<u>80</u> ドル/トロイオンス	1ドル/トロイオンス上昇 の場合 経常利益 0.6億円/年増加
為替	151 円/ドル	<u>160</u> 円/ドル	1円/ドル円安の場合 経常利益 1.1億円/年増加

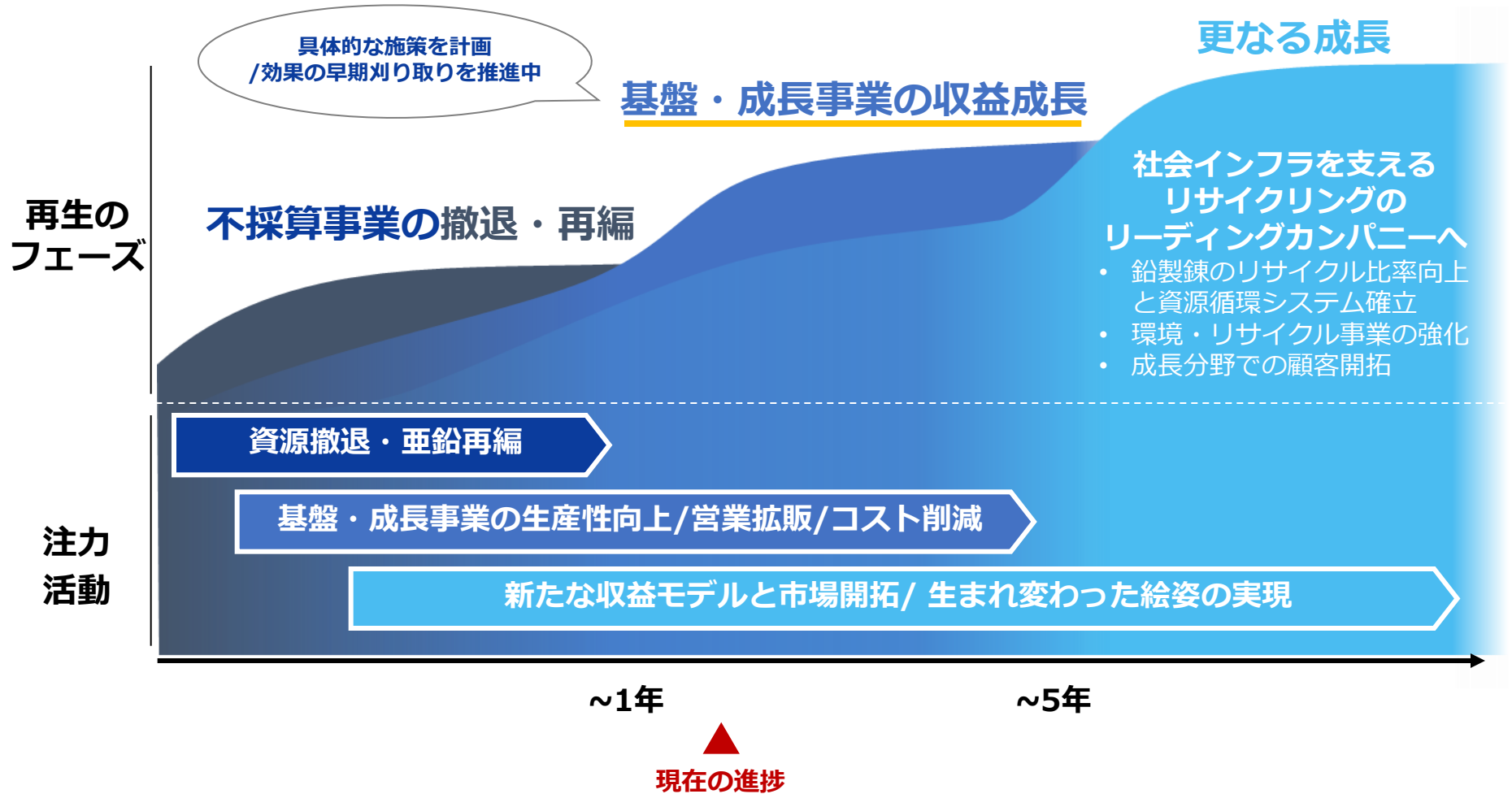
# 目次

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 1. 2026年3月期 期末決算  | P.3  |
| 2. 2027年3月期 通期見通し | P.10 |
| 3. 事業再生計画について     | P.15 |
| 4. その他            | P.23 |

Appendix

# 事業再生計画の全体像

事業再生計画の全体骨子は不変。現状は基盤・成長事業の収益成長の取り組みを中心に計画化/効果の早期刈り取りを推進しております



# 事業再生計画におけるこれまでの成果（1/3）全体像

事業再生計画から1年が経過しましたが、概ね順調に計画は進捗しております

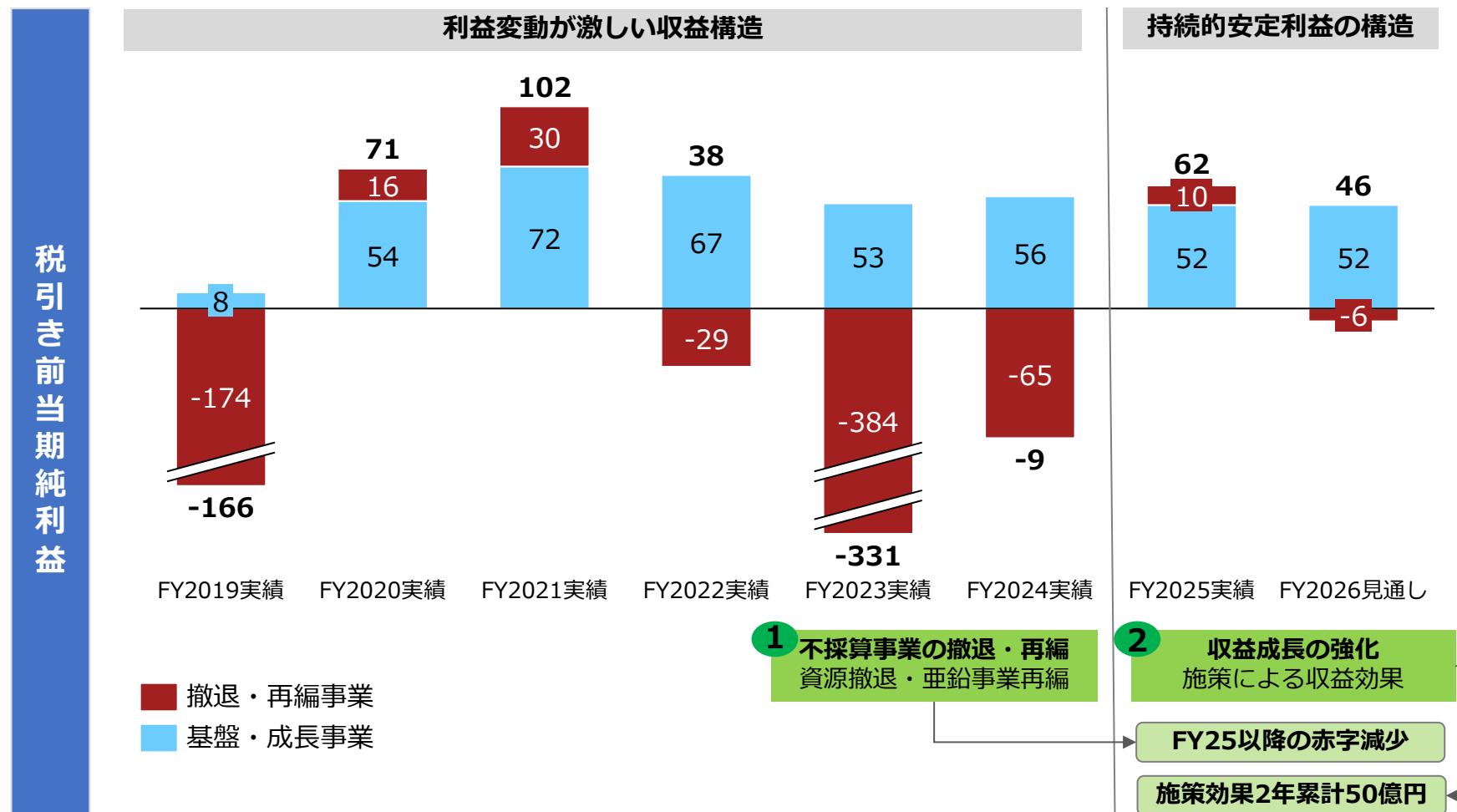
各テーマ	評価	主な進捗や成果のポイント
数値 再生計画数値	好調な決算	<ul style="list-style-type: none"><li>再生計画1年目で当期純利益の黒字化達成</li><li>EBITDAも80億円水準で稼ぐ力も回復</li></ul>
フェーズ1 不採算事業の 撤退・再編	構造改革が 順調に進捗	<ul style="list-style-type: none"><li>資源事業の撤退、亜鉛製錬事業の再編も実施済</li><li>事業投資の意思決定プロセスの強化を実行</li></ul>
フェーズ2 基盤・成長事業 の収益成長	施策効果 積み上げ堅調	<ul style="list-style-type: none"><li>施策の積み上げによる収益効果も順調</li><li>DX強化（IT基盤/スマート工場化）も順調に進捗</li></ul>
フェーズ3 更なる成長	投資強化など 検討中	<ul style="list-style-type: none"><li>競争力強化のための新事業については検討中</li></ul>

# 事業再生計画におけるこれまでの成果 (2/3) 収益構造

事業再生開始より持続的な安定利益の構造になり、施策効果で稼ぐ力も強化できております

(億円)

※セグメント内部取引を含む数値



# 事業再生計画におけるこれまでの成果（3/3）DX推進

DXロードマップに基づき、全社横断で改革を進めるための基盤作りを進めております  
今後は基盤整備を踏まえ、本格的な施策推進を進めてまいります

## 進捗サマリー

## 主な取り組み

### 次世代IT基盤の 再構築・ DX組織強化

着手テーマ数：22件(内、17件完了)

- 次世代IT基盤再構築の本格化に向けての土台整備中

- ✓ 社内コミュニケーション活性化ツール導入
- ✓ 社内ネットワーク最適化
- ✓ データプラットフォームの再構築
- ✓ セキュリティ対応強化 等

### スマート工場化

着手テーマ数：5件

- 短期効果創出可能な施策を順次対応中
- スマート工場化の全体像の整理中

- ✓ 廃バッテリー管理高度化
- ✓ 電解鉄事業のDX化
- ✓ 現場コミュニケーション改善・効率化
- ✓ IoT技術活用による現場作業の省人化 等

### クイックウィン でのデジタル活用

着手テーマ数：9件(内、5件完了)

- 効果実感しやすいテーマから優先着手
- CDIOを中心に積極的に社内での情報発信や勉強会の実施

- ✓ AI活用した経費精算業務の効率化
- ✓ 申請業務の全社統一・デジタル化
- ✓ データ入力の整流化  
(保全課工事データ、検査課検査結果データ)
- ✓ ペーパーレス化の促進 等

# 事業再生計画におけるFY2026の方針について

基本方針と重点アクションを明確化して、メリハリのある計画の推進を目指しております

## 外部環境に依存しない 自らの力で収益を創出する基盤固めの1年

### 基本方針

不採算事業  
の撤退・再編

- ① **操業安定の徹底**  
-安全・安定操業の確立  
-トラブル未然防止／再発防止

基盤・成長事業  
の収益成長

- ② **収益力の強化**  
-原料ベストミックスの高度化  
-二次原料からの有価金属回収強化

更なる成長

- ③ **全社構造改革の加速**  
-施策効果による改善積上げ  
-低収益事業・資産の見直し

- ④ **投資テーマにおける検討強化**  
-事業の競争力強化投資の検討推進  
**New** 非連続な成長を見据えた機能強化

### 重点施策（アクション）

- ・維持更新投資による**操業安定化（DX投資）**
- ・二次原料（金銀）調達拡大による**収益改善**
- ・鉛バッテリー回収量増加・交渉力強化
- ・金属リサイクル事業の**再生PJの推進**
- ・貴金属/レアメタル回収の**強化（湿式製錬）**
- ・不採算事業・資産の**整理**
- ・戦略投資/M&A戦略の**強化**

# 更なる成長を見据えたM&A戦略、事業提携、共同研究戦略

非連続的な成長を企図してM&Aや事業提携、共同研究を促進していきます

狙い

1. リサイクルのリーディングカンパニーとしてリサイクル比率の引上げ
2. 鉛製錬の国内トップとして製錬技術のさらなる深化
3. 貴金属、レアメタルの集荷・回収強化
4. 機能材分野の技術開発、新素材・性状、用途開発

## M&A

## 事業提携

## 共同研究

強化したい機能

- 廃バッテリーの集荷、運搬、解体
- 廃棄物の収集許認可、集荷
- 貴金属、レアメタルの回収技術
- プラントエンジニアリング

- 廃バッテリー、製錬残渣等の共同での効率的な物流
- 精鉱の共同調達
- 貴金属、レアメタルの製錬技術
- 海外製錬プロジェクト

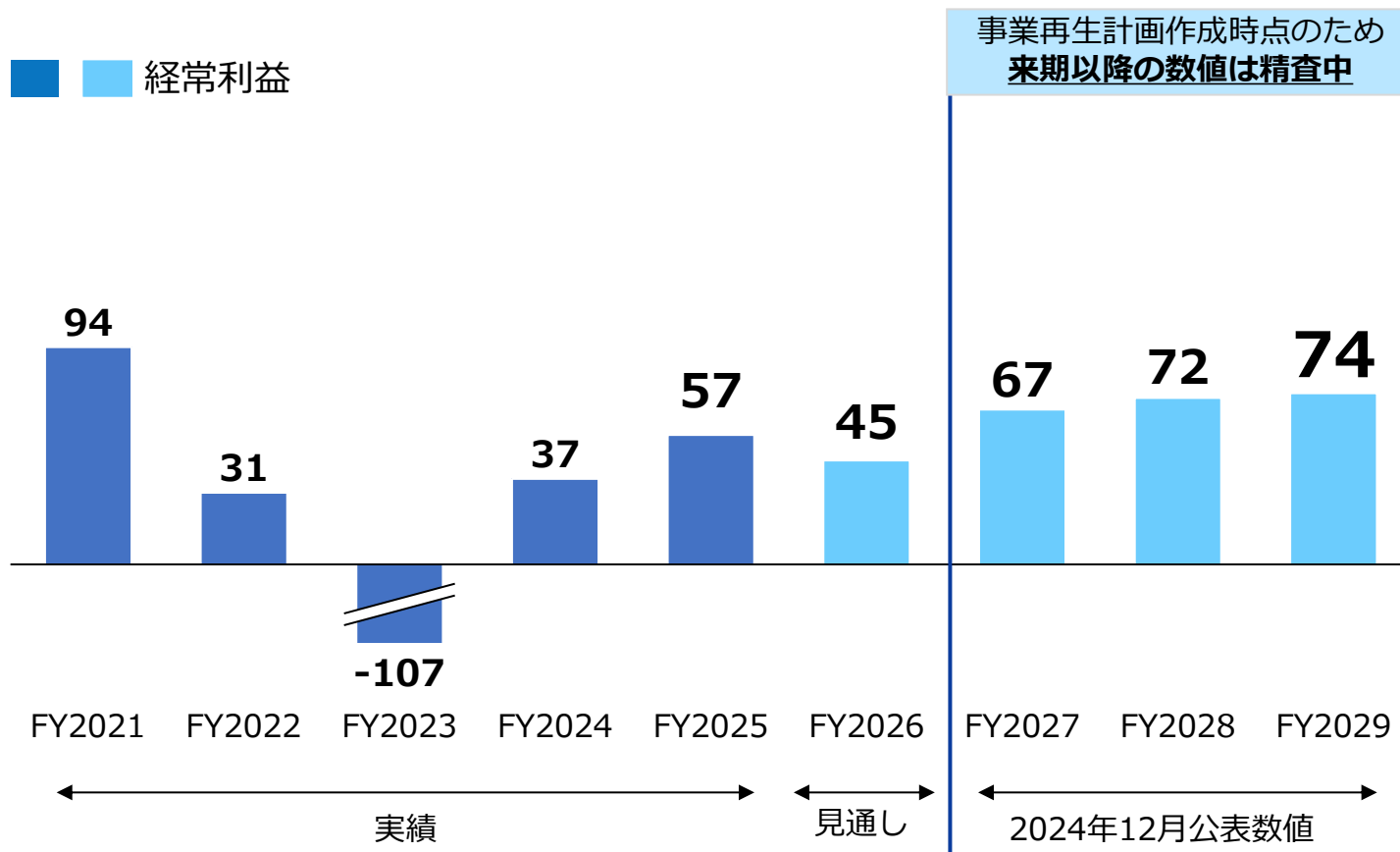
- 大学、研究ベンチャー等の研究機関との共同研究による知財開発
- 貴金属、レアメタルの製錬技術
- 機能材分野の新素材、性状開発、用途開発

## 再生計画の数値

為替・資源相場の変動および事業の進捗を踏まえFY27以降は精査中。環境変化に依存しない多様な収益モデルの実現を目指しております

(億円)

■ 経常利益



31/3期以降は  
更なる成長へ

# 目次

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 1. 2026年3月期 期末決算  | P.3  |
| 2. 2027年3月期 通期見通し | P.10 |
| 3. 事業再生計画について     | P.15 |
| 4. その他            | P.23 |

Appendix

## 株価（プライム市場維持の達成）

2026年3月31日時点において、東証プライム上場維持基準に適合いたしました

【2026年3月31日時点】

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 (2026年3月31日時点)	19,228人	129,474単位	197億円	94.0%
上場維持基準	800人以上	20,000単位以上	100億円以上	35%以上
基準達成	○	○	○	○

# 直近の主要リリース

3月に組織改正、4月にMVV策定、社長交代、社名変更のリリースをしております

2026年4月1日変更

## 01. 組織改正

- 2026年4月1日より以下を主な内容として組織改正を行っております
  - ①事業本部を廃止し3事業部制に移行
  - ②技術部門の再編とCTO（最高技術責任者）の設置
  - ③法務機能の戦略的強化
  - ④機能別営業組織の設置
- 本改正に合わせ、**執行役員体制も見直しております**

2026年4月1日変更

## 02. MVV

- 経営理念体系図を**MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）に再定義**しております

2026年6月26日予定

## 03. 社長交代

- 6月26日開催予定の定時株主総会および取締役会へて変更予定です  
事業再生計画の実行を加速し、持続的成長と企業価値の向上を目指しております  
**現任 伊藤 正人 ⇒ 新任 佐藤 義和**

2027年4月1日変更予定

## 04. 社名変更

- 定時株主総会での定款変更議案の可決を条件に、2027年4月1日を変更予定日として社名変更いたします  
**新社名 東邦メタリクス株式会社（英：Toho Metalix Co., Ltd.）**  
ベースメタルからレアメタル・貴金属まで幅広く金属を取り扱う事業領域を表しております

# 新たな執行役員の体制（2026年4月1日の体制）

4月に組織および執行役員の体制変更、6月に社長交代を予定し、更なる成長を目指します



代表取締役  
社長執行役員  
伊藤 正人



取締役  
常務執行役員  
佐藤 義和  
CRO兼CLO



常務執行役員  
森田 英治  
CTO 兼技術統括部長  
兼製錬技術部長



常務執行役員  
二木 健匡  
CFO 兼総務担当兼  
CBH Resources  
Pty Ltd. Director



常務執行役員  
高橋 康司  
金属事業部長



執行役員  
山崎 晃一  
東邦契島製錬株式会社  
代表取締役社長



執行役員  
高橋 宏  
安中製錬所長



執行役員  
世利 耕一  
電子部材・機能材  
料事業部長兼CBH  
Resources Pty  
Ltd. Director



執行役員  
橋田 幸弘  
リサイクル  
事業部長



執行役員  
森谷 明広  
CDIO

# ミッション・ビジョン・バリュー（2026年4月1日施行）

MVVを新たな経営理念体系図として再整理しております

## 経営理念体系図



社名を変更し新たな成長フェーズへ（2027年4月1日より社名変更予定）

# 東邦メタリクス

足元の貴金属の上昇に乗った収益確保に加えて、  
インフレ、為替変動、原料調達の変動、その他様々な環境変化に  
依存しない事業構造の転換を実現していく

ベースメタルからレアメタル・貴金属まで幅広く金属を取り扱う事業領域  
において競争力を強化し、新たな成長ステージへ向かう

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 1. 2026年3月期 期末決算  | P.3  |
| 2. 2027年3月期 通期見通し | P.10 |
| 3. 事業再生計画について     | P.15 |
| 4. その他            | P.23 |

Appendix

## 四半期別実績推移

		FY2024				FY2025			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
市況									
鉛	US\$/t	2,166.3	2,041.4	2,006.1	1,970.3	1,946.8	1,964.8	1,970.8	1,931.4
銀	US\$/oz	28.9	29.4	31.3	31.9	33.6	39.4	54.8	84.4
円/米ドル		155.9	149.4	152.4	152.6	144.6	147.5	154.2	156.9
製錬セグメント主要製品生産量									
鉛製品	千t	23.7	21.1	21.7	15.1	19.7	20.6	24.7	16.5
電気銀	t	53.0	63.9	62.7	59.5	44.5	64.9	74.8	63.9
収支									
売上高	億円	348.9	286.1	337.9	289.7	268.7	269.6	362.7	354.5
営業利益	億円	35.4	(1.6)	24.9	(2.5)	(8.5)	1.8	35.9	38.1
EBITDA	億円	42.3	5.8	32.4	1.3	(5.1)	5.3	39.3	41.8
経常利益	億円	33.1	(5.8)	15.6	(6.1)	(10.8)	(1.0)	32.9	35.7
製錬	億円	20.2	(6.7)	18.8	3.4	(4.2)	2.4	19.1	20.6
在庫評価損益	億円	6.1	(9.1)	11.8	(0.9)	(6.0)	(0.3)	9.4	1.8
その他	億円	14.1	2.4	7.1	4.3	1.8	2.8	9.7	18.8
環境・リサイクル	億円	4.6	3.9	3.4	4.8	2.4	1.1	1.0	4.7
電子部材・機能材料	億円	1.8	1.5	1.0	0.5	0.7	1.2	0.8	1.9
金属リサイクル	億円	8.7	(9.8)	(3.1)	(8.2)	(6.8)	(1.3)	14.0	8.6
資源	億円	(0.2)	7.0	0.8	(3.0)	(0.2)	0.2	0.0	0.0
その他	億円	0.7	0.3	1.5	2.2	1.3	(0.4)	0.8	0.6
調整額	億円	(2.7)	(1.9)	(6.9)	(5.7)	(4.1)	(4.0)	(2.8)	(1.5)
当期純利益/損失	億円	26.2	15.9	(52.3)	(4.4)	(11.1)	(2.4)	30.9	30.5

# 期末実績・比較

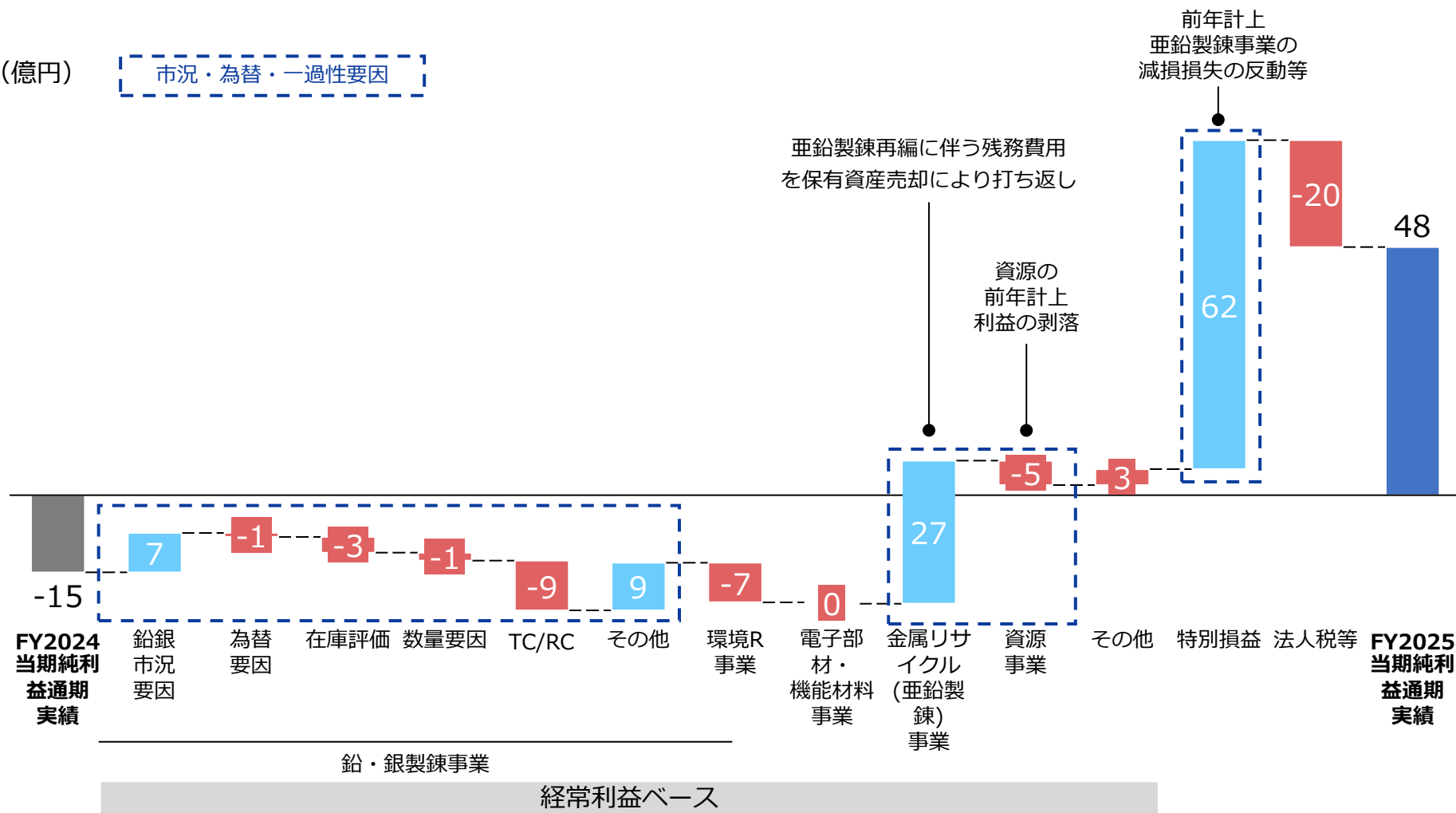
		FY2024	FY2025	差 (実額)	差 (%)
市況					
鉛	US\$/t	2,046.0	1,953.4	(92.6)	(5%)
銀	US\$/oz	30.4	53.1	22.7	75%
円/米ドル		152.6	150.8	(1.8)	(1%)
製錬セグメント主要製品生産量					
鉛製品	千t	81.7	81.5	(0.2)	(0%)
電気銀	t	239.1	248.1	9.0	4%
収支					
売上高	億円	1,262.7	1,255.5	(7.2)	
営業利益	億円	56.3	67.2	11.0	
EBITDA	億円	81.7	81.3	(0.4)	
経常利益	億円	36.9	56.8	19.9	
製錬	億円	35.7	37.9	2.2	
在庫評価損益	億円	7.9	4.9	(3.0)	
その他	億円	27.9	33.1	5.2	
環境・リサイクル	億円	16.7	9.2	(7.5)	
電子部材・機能材料	億円	4.8	4.6	(0.2)	
金属リサイクル	億円	(12.5)	14.5	27.0	
資源	億円	4.6	0.0	(4.6)	
その他	億円	4.7	3.1	(1.7)	
調整額	億円	(17.2)	(12.5)	4.7	
当期純利益/損失	億円	(14.6)	47.8	62.4	

## FY2024からFY2025の変動要因

前年同期比では、TC/RC条件悪化などはあるものの、亜鉛製錬再編に伴う保有資産の売却や前年計上の亜鉛製錬事業の減損損失の反動により当期純利益は増加しました

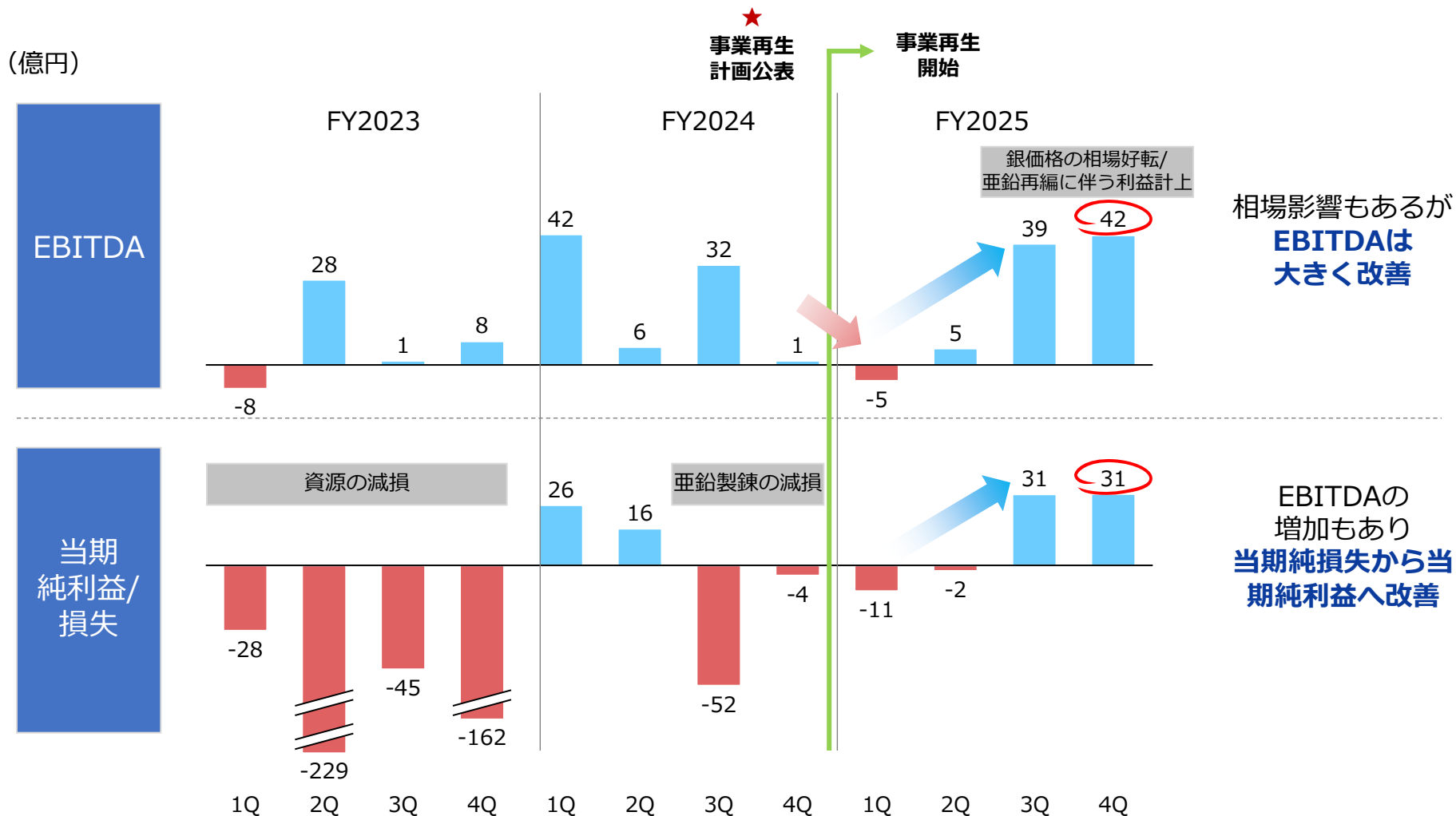
(億円)

市況・為替・一過性要因



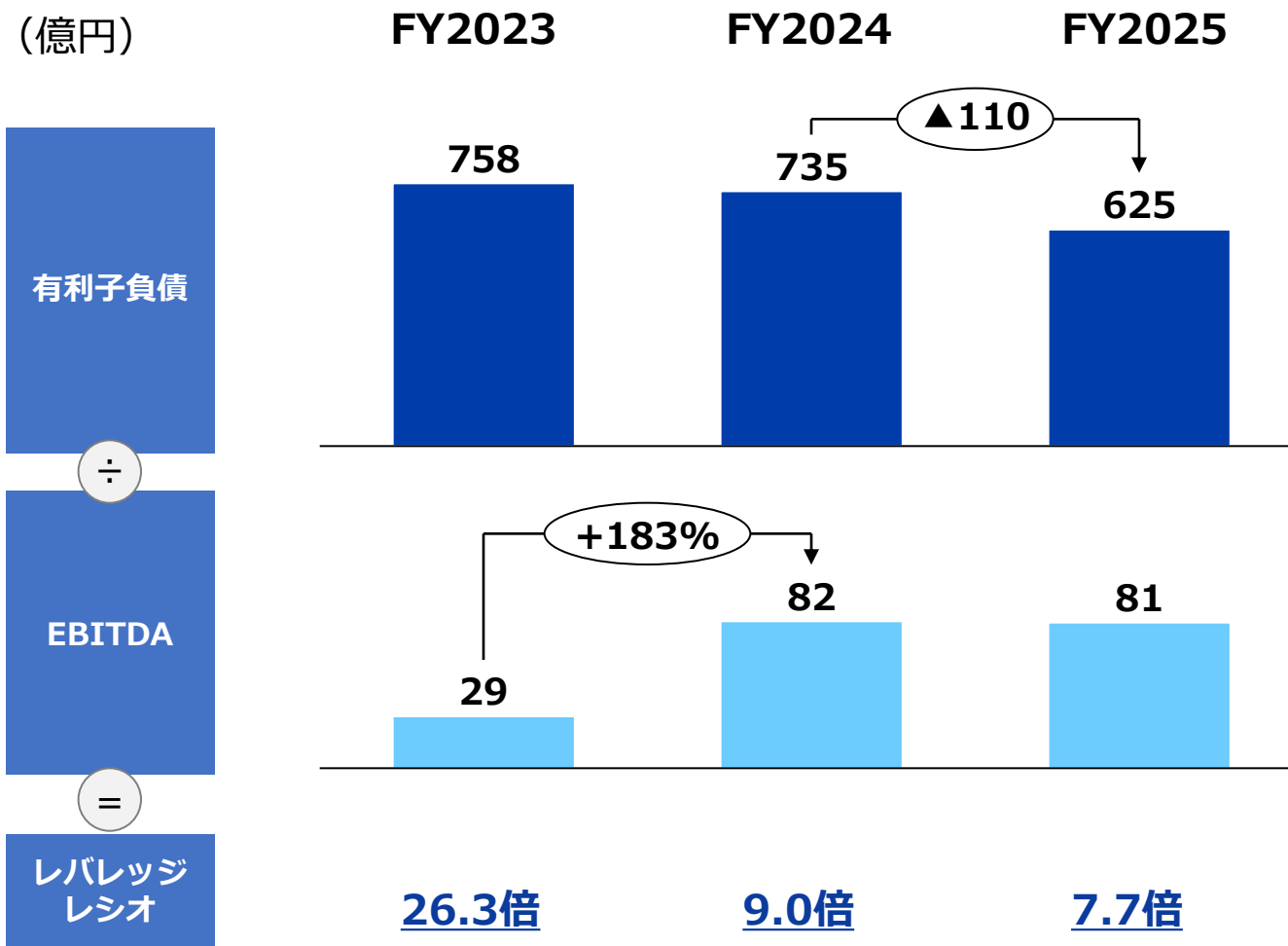
## 四半期ごとの損益推移

四半期の推移で見ても、足元の相場好転の影響はあるものの着実に事業再生開始から利益成長を実現いたしました



# 有利子負債÷EBITDA=レバレッジレシオ

事業再生期間の初年度の業績は好調であり、レバレッジレシオも改善しております



FY25に銀行ローン返済に伴い有利子負債は減少

相場影響もあるがEBITDAは大きく改善

## 純資産の状況

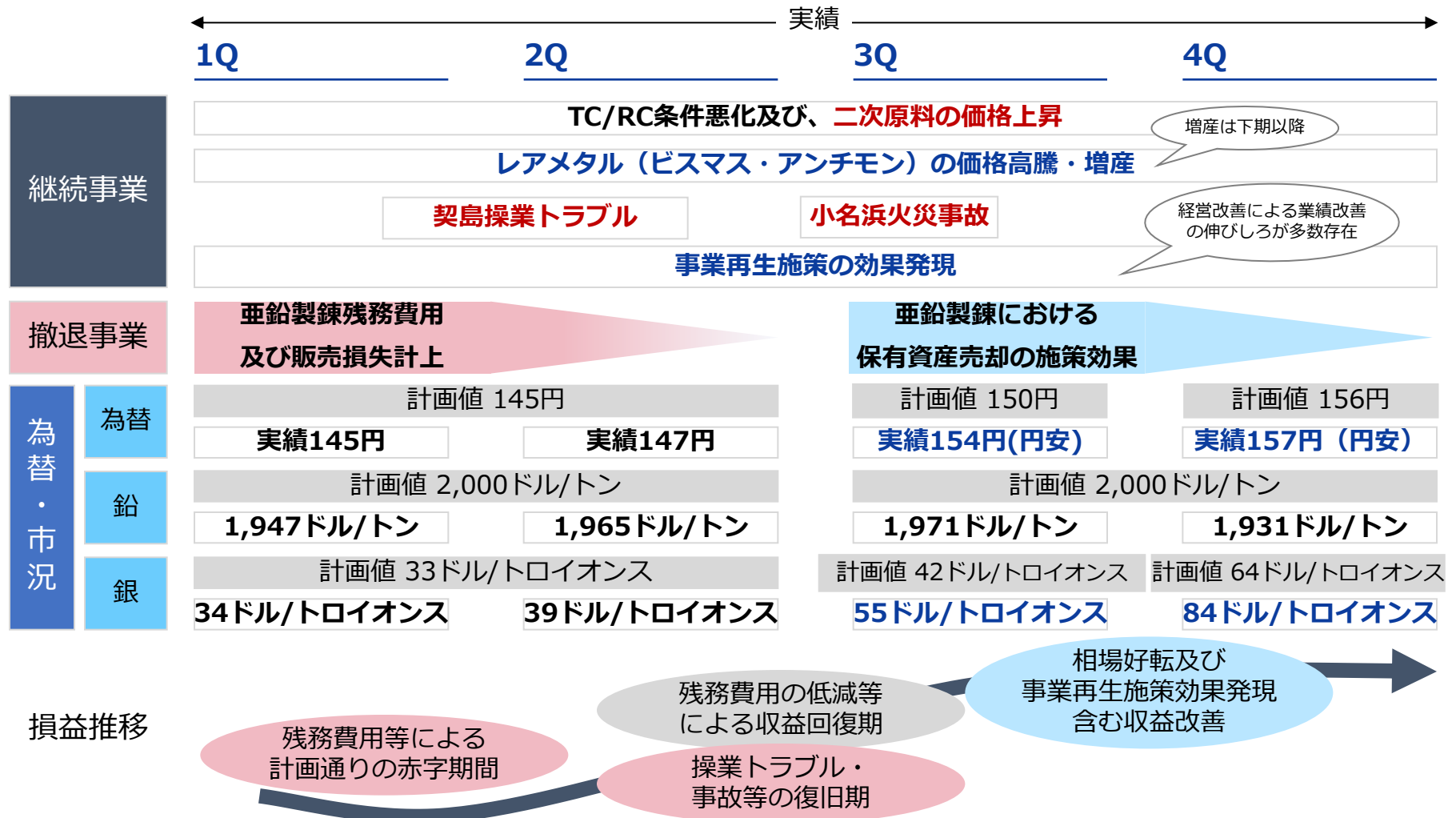
純資産は当期純利益の黒字化もあり、順調に回復傾向です

(億円)

項目	FY2023	FY2024	FY2025
純資産	27	101	137
総資産	1,084	993	989
自己資本比率	2.5%	10.2%	13.8%
当期純利益	▲465	▲15	48

# 2026年3月期（FY2025）における内外環境

TC/RC条件悪化及び二次原料の価格上昇、操業トラブル・火災事故等のマイナスの影響に対して、相場好転もあるものの事業再生計画の効果発現もあり、収益向上が実現できました



## FY2026の上期のIR発信について

企業価値向上を目指して新しい取り組みも強化していきます

### 上期の主なIRの発信

- 4月7日（火） 社長交代、社名変更、ミッション/ビジョン/バリューのリリース
- 5月14日（木） FY2025 期末決算発表
- 5月23日（土） 個人投資家イベント **New**  
[第1回 ダイヤモンドIRフェア2026 - 未来を読み、企業を選ぶ 価値ある投資の第一歩 -](#)
- 6月26日（金） 株主総会
- 8月14日（金） FY2026 1Q決算発表
- 8月 統合報告書の発行
- 9月 統合報告書の説明会（予定） **New**

※事業再生計画における進捗説明（FY27以降の見通し）についても決算発表のタイミングで都度発信予定

